

## 2017 年度 第 8 回 Jリーグ理事会定時会見録

2017 年 9 月 28 日(木)17:00～17:30

[司会より]

### 《決議事項》

#### 1. 2018 シーズン以降の Jリーグ YBC ルヴァンカップ大会方式の件

7 月の理事会の際には決議事項ではなかったが口頭で説明させていただいた。改めての説明と若干の補足をする。2018 シーズンからの大会方式を変更する。グループステージ出場クラブは 14 チームから 16 チームへ変更となる。J1 の 14 プラス、J2 の 2 チームを加えた 16 チームで、4 チーム×4 グループに分け、2 回戦総当りのグループステージを行う。グループステージの上位 2 チームがプレーオフステージに進出し、プレーオフステージに勝利した 4 チームが ACL に出場する 4 チームとノックアウトステージを戦う。

ACL のプレーオフステージで Jクラブが破れた場合、ルヴァンカップに参加する ACL チームが 3 チームとなるため変則的になる。グループステージの参加チーム数は 16 チームのままだが、ACL プレーオフステージ敗退チームが 1 チーム、グループステージから参加するため、J2 からの参加は 1 チーム減って 1 チームのみとなる。

続いてグループステージ終了後のプレーオフステージに進出するのは、これまでの 8 チームから 2 チーム増えて 10 チームとなる。グループステージ各グループ上位 2 チームと、3 位の中で成績が良かった 2 チームの 10 チームとなる。その勝者(5 チーム)が ACL 出場 3 チームと合計 8 チームでノックアウトステージを戦う。

大会のレギュレーション変更は、ACL のレギュレーションと合わせた形でグループステージの順位決定方法を変更した。勝点と同じだった場合は、グループ内での成績ではなく、勝点が同一のチーム同士で行った試合の直接対決(の成績)を先に見る。

- ① 勝点が同一チーム同士で行った試合の勝点
- ② 勝点が同一チーム同士で行った試合の得失点差
- ③ 勝点が同一チーム同士で行った試合の得点
- ④ 勝点が同一チーム同士で行った試合のアウェイゴール の順で順位を決定する。

なお、それらを適用してもなお順位が決定しない場合は、資料の下に記載してある⑤～⑨が適用される。

- ⑤ グループ内の全試合の得失点差
- ⑥ グループ内の全試合の得点
- ⑦ 順位決定に関わるチームが 2 チームのみで、その両チームがフィールド上にいる場合は PK

- ⑧ 反則ポイントの少ない順
- ⑨ 抽選

## 2. 2018 シーズンJ3クラブライセンス判定の件（新入会対象 4 クラブ）

はじめに、Jリーグ入会（J3リーグへの参加）までの道のりについておさらいする。Jリーグ百年構想クラブに認定されること、J3クラブライセンスが交付されることが条件になるが、本日は「J3クラブライセンスが甲府されること」について審議された。6 月末の提出期限であったクラブライセンス申請について、9 月の理事会で審議された。

J3入会を希望するクラブは、ヴァンラーレ八戸、奈良クラブ、FC今治、東京武蔵野シティFCの 4 クラブ。結果、ヴァンラーレ八戸FC、奈良クラブ、FC今治はJ3クラブライセンスを交付することを決定した。東京武蔵野シティFCは、昨年に続きライセンス不交付となる。不交付理由は、ホームスタジアムの武蔵野陸上競技場が、J3スタジアム基準の入場可能数 5,000 人に満たないためである。この後、(JFLの)順位条件を満たしたクラブが、今後のJリーグの理事会で再び審議される。

## 3. ホームタウン追加の件(京都サンガ F.C.、ヴァンラーレ八戸)

京都サンガ F.C. は、南丹市、京丹波町の 1 市 1 町を加え、合計 9 市 1 町をホームタウンとすることが承認された。ヴァンラーレ八戸は、三沢市、七戸町、六戸町、東北町、野辺地町、横浜町を加え、16 の自治体をホームタウンとして活動することが承認された。

## 《報告事項》

### 1. マーケティング委員会 委員長専任の件

空席となっていたマーケティング委員長に、これまでマーケティング委員を務めていた 株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー 取締役 事業部長 鈴木秀樹氏を選任した。

### 2. 後援名義申請の件

- ① スポーツ・オブ・ハート 2017 への後援名義を行うことを決議した。

## [村井チェアマンからコメント]

8 月は理事会がなかったため 2 ヶ月ぶりの開催となった。決議事項および報告事項の概要は、村山からご報告させていただいたとおりである。昨日、ACL 準決勝 第 1 戦 上海上港 vs 浦和レッズの試合を原副理事長とともに現地で視察した。浦和は貴重な勝点を得た状態でホームゲームを迎えられる。なかなか手強い相手だが全力を尽くしてほしい。本日は、浦和の淵田社長が理事をされているため、理事会で激励し、皆の期待を託した。

## [質疑応答]

Q:東京武蔵野シティFC が不交付となったが、スタジアムの入場可能数が 5,000 人に満たないのは

申請前から分かっていたこと。経営が苦しいなどといった理由はわかるが、(スタジアムの)入場可能数は決まっている。なぜクラブは申請をし、またJリーグは申請書を受け取ったのか。

A :Jリーグ担当者

(スタジアムの入場可能数は)客観的な数値で測れるものなので、ある程度事前に分かる。施設はクラブ単独で整備できない中で、どこのスペックが満たないのかを両者で確認すること、また自治体、経済界、クラブを支援していただいている方にもっと理解をしていただきたいということで、今回クラブから申請された。

Q: 申請したが、スタジアムの問題で却下されたということは、自治体の皆さんに力を貸してもらいたいというきっかけにしようとしたということか。

A:Jリーグ担当者

それもひとつある。自治体だけに依頼することではないが、重要なステークホルダーに不交付の理由をしっかりと共通認識していただく目的があると思う。

Q: シーズン移行について、実行委員会で話し合われると思うが、その前にアンケートをとってかなりの割合で難しいと返答をもらったと聞いている。どのくらいの割合で、今後どうしていくのか。

A:村井チェアマン

本件に関してはJFAとJリーグで将来構想委員会という場を通じ、年内いっぱい議論をする中での途中のプロセスである。途中のプロセスで方向性が決まったように誤解されると禍根が残るため、この会見の場で具体的に申し上げるのは控える。理事会では、先般の将来構想委員会の報告内容、議論をサマリーにして共有した。具体的に進展、議論は本日の時点ではない。

Q:FC今治にJ3クラブライセンスが交付されたが、今治には新しいスタジアムが出来て町の盛り上がりがある。Jリーグとして期待することは。

A:村井チェアマン

今治に限らず、J3入りを目指しているクラブが複数ある。財務基準、スタジアム基準が表に立ちやすいが、アカデミー組織の整備や組織基準などの細部まで確認している。八戸、今治は入会前に既にサッカースタジアムを用意できている。本気でJリーグ入会を考察していただいていることに感謝したい。今治だけではないので個別のコメントは控えさせていただく。

Q:ルヴァンカップのグループステージの順位の決定方法を ACL に合わせたというのは、国内で行われる条件が同様の大会は、グループ全体の得失点などを優先し、ホーム&アウェイのような大会は ACL の方式が主となると思うが、変更の意図は。

A:村井チェアマン

現行は全ての日程では実現できていないが、極力 ACL とルヴァンカップの日程を揃え、(リーグ戦における)競技上のイコールコンディションを保てるようにしたいという意図があった。さらに、ACL に出場していないチームも、ACL を視野に入れ、順位の決定の仕方も ACL 方式に慣れてもらいたいという意図がある。(Jクラブが参加する)競技会は天皇杯を含めて色々あるが、ルヴァンカップは ACL を意識している大会として、同じ条件でやっていこうということになった。

了